

## ▼ラスリテック点滴静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ラスブリカーゼ（遺伝子組換え）（U） Rasburicase (genetical recombination) 【分類】尿酸分解酵素製剤 [がん化学療法用]

【単位】▼1.5mg [溶解液 2mL]・▼7.5mg [溶解液 5mL] /V

【常用量】1日1回0.2mg/kg [添付溶解液1Aで溶解し、必要量を50mLの生理食塩液で希釈]

投与量については最新のガイダンスを参照のこと（低用量や単回投与など複数の提案あり）

【用法】1日1回、30分以上かけて点滴静注。がん化学療法開始4～24時間前に投与を開始。最大7日間。

【透析患者への投与方法】減量の必要なし（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし（1）

【特徴】尿酸を酸化しアラントインと過酸化水素に分解することで血中尿酸値を低下させる酵素製剤。ヒトではウリカーゼが欠損しているため、アスペルギルス由来のウリカーゼ遺伝子を導入して作成された製剤。

【主な副作用・毒性】ショック、アナフィラキシー、メトヘモグロビン血症、溶血性貧血、血球減少、消化器症状、肝障害、尿蛋白、めまい、発疹、呼吸困難、血清電解質異常など多数

【安全性に関する情報】G6PD欠損例では溶血性貧血を引き起こす可能性 [過酸化水素処理異常]（1）中和抗体生成の報告あり（1）

【代謝】資料なし（1）

【排泄】分子量が大きく、未変化体は尿中に排泄されないと思われる（5）

【CL】2.17～2.88mL/hr/kg（1）

【t1/2】22hr（1）18hr（U）

【蛋白結合率】該当しない（1）

【Vd】70.3～89.5mL/kg（1）110～127mL/kg [小児]（U）

【MW】34151.19

【透析性】資料なし（1）分子量が大きく透析されないと思われる（5）

【OW係数】資料なし（1）

【更新日】20240919

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。